

「後漢末期のある夏、魏の曹操が自分の勢力を拡大するために、自ら軍隊を率いて、張綉(後漢末の群雄の一人)と戦いました。

十分な水を持って行かなかったので、兵士たちは疲れ果て、喉が乾いていました。カラカラに乾いた土地を行軍していたので、多くの兵士たちが渇きで倒れ込んでしまい、曹操を慌てさせました。彼は斥候を出して、近くに水場を探させ、長い間待ちましたが水場はありませんでした。曹操は困りましたが、遙か前方に見える林に目をやると、良い考えが浮かびました。彼は全軍に伝令を送り、各部隊に伝えさせました：「前方に大きな梅林があるので、そこまで行けば、美味しい梅が思いっきり食べられるぞ。」言われて、兵士たちが前方を眺めやると、遙か彼方に大きな樹林の影が見えたので、たわわに実った梅の実を想像しただけで、口に唾液が湧いて来て、急に元気を取り戻し、勇んで行進したので、思ったよりずっと早く野営地へ帰りつきました。」

言葉の意味としては、「望みが実現する可能性が無い時、希望を思い描き空想して、自分を満足させることの喩え」とあります。

使用例は、「彼は家が貧しかったので、小さい時からいつも『望梅止渴』の方法で自分を満足させてきた」となっています。

日本語では、「ウメを望んで渇きをいやす」と言い、「空想で自分を慰める」と言うのだそうです。

本の使用例も日本語の解説も、諦めのニュアンスが強くて、「絵に描いた餅」と同じ雰囲気です。中国人の積極的な姿勢をよく目にするので、私は、「現在の渇き(不足)を満たしてくれる梅林を遠くに見ながら、そこへ到達しようと努力する」と言うような意味があるのではないかと、あれこれ見回しましたが、見つからず、中国の友人に問い合わせてみました。

すると彼の答えも、「使用例の通りで、日本語の『絵に描いた餅』と全く同じです」、おまけに「この言葉は実際にはあまり使われず、言葉の出所である曹操の話

だけが有名です」と言ってきました。つまり、「遠くの梅林に向かって努力する」と言う解釈は全くないのだそうです。私の独りよがりな解釈でした。

私は、中国の人達の積極性を好ましく思い、それなりに評価しているのですが、この積極性に関して、一つだけ、嫌いなことがあります。それは新幹線の輸出です。

中国が、フランスと日本から新幹線を導入したのは、高々10年程前のことでした。それが今では、アジアやアフリカの国々に、「中国の新幹線」として輸出しているのです。自由になったとは言え、本来が社会主義体制の国ですから、中国政府の当事国に対する援助と抱き合わせで、フランスや日本に競り勝って、次々と受注して居るのだそうです。

日本も、明治になってから、欧米の鉄道技術を導入しましたが、長い年月をかけて日本独自の改良を重ね、技術を進歩させて、世界でも有数の、安全で時間に正確な鉄道網を作り上げました。それに対して、中国は導入して10年そこそこ、独自の安全システムを開発したとも思えないのに、「中国の新幹線」として堂々と輸出しているのです。

今中国では、多くの都市を新幹線で結ぶ計画があり、急ピッチで建設が進んでいます。走行する列車は快速ですが、駅の施設とか旅客誘導の方法にはかなり問題があります。これら問題を解決してから、総合的な新幹線システムを売りに出した方が、中国の威信の為には良いのではないかと思います。中国の国内市場は大きいのですから。

加えて言えば、鉄道建設にも、中国人労働者が大挙して乗り込んで仕事をするので、施工当事国の労働市場には恩恵が少なく不評なのだそうです。

こんな話を聞くと、好ましく思っている中国の積極性があだになっているのではないかと思います。中国のためにとっても残念に思います。

注) 梅望：ここでの梅は楊梅(ヤマモモ)を指す。ヤマモモの実は、喉の渇きを癒やし、胃腸の働きを整える力があると言われている

